学苑・環境デザイン学科紀要　No. 909　62〜73（2016・7）

〔研究ノート〕

大森駅東口地区のまちづくり

木村　信之

Town Planning for the East Gate Area of Omori Station: A Study

Nobuyuki KIMURA

The author surveyed the East Gate area of Omori Station which is in Ota-ward, Tokyo, for the purpose of collecting data useful in future town planning. First, the history and physical environment of Omori since the Edo Period, including its location, changes in the townscape of houses and buildings, and demographics are explained.

According to surveys by the ward, the population of the residents has been increasing, but the numbers of households has been decreasing for the past 27 years, and many of the ward residents hope to live in the area long term.

The author distributed a questionnaire asking about how residents of the area live. 51 parents of local elementary children and 76 local council members involved in town planning, members of neighborhood associations, and shopkeepers responded; more than half of the parents had lived in the district for less than 20 years while most of the latter respondents had lived in the district for more than 40 years. The neighborhood association members who lived near the shopping streets responded that they buy things at shops on those streets daily while many younger parents tended to respond that they are not regular customers of the shops in the shopping streets. An additional survey of traffic routes showed that many people travel on the shopping streets to the station and many people visit the shopping streets by bicycle.

The author suggests that the importance of communal gathering places in the district must also be taken into account by those hoping to invigorate it.

Key words: East Gate area of Omori Station（大森駅東口地区）, town planning（まちづくり）, demographics（人口動態）, number of households（世帯数）, shopping street（商店街）, residents（住民）, traffic route（動線）

1. はじめに

大田区は，昭和 22 年，旧大森区に旧蒲田区が統合されて誕生し，JR 大森駅と蒲田駅がそれぞれの旧区域を象徴する存在となっている。蒲田駅前には大田区役所もあり，近年京急羽田線の高架化をはじめ都市整備が進展しているのに比べ，大森地区の都市整備は遅れをとっている。大田区では，平成 20 年に大田区基本構想を，翌年には「おおた未来プラン 10 年」を策定し，その中で大森駅周辺地区を，蒲田，羽田空港・臨海部と共に「にぎわいと活力を生み出す区の中心拠点」に位置付けた。そして，「大森駅周辺地区グランドデザイン」を平成 23 年 3 月に発表している。この中で大森駅東口地区は，「浜風かおるにぎわいエリア」と名付けられ，「居住者・事業者・来訪者がいきいきとしたまちの形成」を基本方針とし，西口の山王地区は「文化かおる緑のエリア」と名付けられ，「歴史・文化を未来につなぐ魅力的な居住地の形成」を基本方針とし，この両者の達成によって大森駅周辺地区の中心拠点化を図ろうとしている。[*1]

平成 25 年から，筆者の研究室は大田区並びに地元大森銀座商店街，入新井第一小学校などと連携を構築し，大森駅東口地区への理解を深めつつ，まちおこしに資する協働

活動を行ってきた。それらの知見を踏まえ，大森駅東口地区の独自の調査を行い，まちづくりを考える資料を得ることにした。本報は，その概要を紹介するものである。

2. 大森駅東口地区の概要

大森駅を中心とする区域は，地形的にJR東海道線を境に，東側の海岸に面した低地と，西側の台地に分かれる。大森駅は乗り換えのない駅の中で最も乗降者数が多い駅である。位置的には，駅の北側は品川区に属し，大森地区全体の中では北に寄った位置にある。

JR大森駅東口の地域（大森北1〜4丁目）は，比較的規模の大きな商業施設を中心に商店街や各種サービス施設が立地している。また，マンションの増加などにより居住人口も増え，近年では商業・住居が近接する市街地としての性格が強まっている（表1）。

表1　大森駅東口地区の住民数

町名	世帯数	住民数（人）		
		男	女	計
大森北1丁目	2665	2049	2262	4311
大森北2丁目	1909	1805	1870	3675
大森北3丁目	3761	3370	3045	6415
大森北4丁目	1886	1675	1661	3336

住民数（平成28年2月1日現在: 大田区住民基本台帳）

3. 大森駅東口の歴史

大森駅東口の歴史を，地元で文書化されたものを参考に要約する。

江戸時代に，五街道のひとつとして東海道が整備された。当時の大森は漁師町で，その中心は現在の京急大森町駅周辺で，東海道の品川と川崎の中間に位置する中宿として繁栄していた。この街道沿いに磐井神社（大森北2丁目）があった。磐井神社は，西暦572年創建と言われており，旧東海道に接しており，江戸時代は鈴ヶ森八幡の名で親しまれていた。

明治5年に東京から横浜までの鉄道が開設され，大森駅は，蒲田駅（明治37年開業）より早く，明治9年に開業している。明治24年ごろ，磐井神社地先の八幡海岸が海水浴場として開かれ，大森駅の開業とも相俟って，駅の西側台地は住宅地として，磐井神社周辺は歓楽街として賑わいを見せるようになり，駅の東側は，大森駅南側から磐井神社の南側を繋ぐ位置に当たる，現在の大森銀座商店街が形成され，磐井神社界隈・八幡海水浴場への経路，西側住宅地の商店街として賑わうようになった。

また明治34年，京浜急行がJR大森駅前〜八幡（現大森海岸）〜川崎（旧六郷橋）間で開通し，その沿線には大小の工場が立地するようになり，第二次世界大戦前には一大軍需工場地帯に成長した。

そのため，戦争中は度々空襲に見舞われ，特に昭和20年4月15日の東京城南空襲によってJR東海道線の東側の多くが灰燼に帰している。

第二次世界大戦後，大森駅東口の大森北1丁目・2丁目及び，3丁目・4丁目の北辺の一部などは戦災復興区画整理地区のひとつに選定され，現在の街路が整備された。

昭和30〜40年代の高度成長期，まちの賑わいはピークを迎えたが，大都市への人口集中を抑制する政策の下，工場の移転が進み，また，オイルショック，子育て世代の郊外でのマイホーム購入による転出，少子化などがあり，昭和50年代は人口減少に転ずることとなった。[*2]

4. 近年のまちなみの変貌

昭和64年から平成27年における大森地区の世帯数の変化を図1，住民数の変化を図2にそれぞれ示す。[*3] 全体的にみると，世帯数・住民数は共に平成7年までは減少し，その後は年々増加していることが分かる。住民数の増減は，全体平均で1.22倍と増加を示しているが，町丁目による差があり，2丁目，1丁目が大きく増加した一方，4丁目，3丁目はほとんど変化していない。また，世帯数をみると，住民数より増加の割合が高く全ての町丁目で増加している。このことは，1世帯当たり住民数に表れており，昭和64年では，全体平均2.09人で，町丁目による差はほとんどなかったが，平成27年になると，全体平均で1.74人と0.25人の減少を示しており，町丁目別にみると，2丁目1.92人，4丁目1.79人，3丁目1.74人に対し1丁目は1.59人と，大きな減少をみせている（表2）。このことは，大森北2丁目の人口増の主要因が大規模集合住宅の立地によるファミリー層の増加と目されるのに対し，大森北1丁目の住民増の主要因は，単身層の増加によるものと考えられる。

表2　大森駅東口地区の世帯数・住民数の変化

	増減率（%）		1世帯住民数（人）	
	住民数	世帯数	昭和64年	平成27年
全　　体	1.22	1.46	2.09	1.74
大森北1丁目	1.41	1.84	2.08	1.59
大森北2丁目	1.90	2.04	2.06	1.92
大森北3丁目	0.99	1.21	2.09	1.72
大森北4丁目	1.06	1.24	2.09	1.79

（大田区住民基本台帳 昭和64年〜平成27年各1月1日現在より作成）

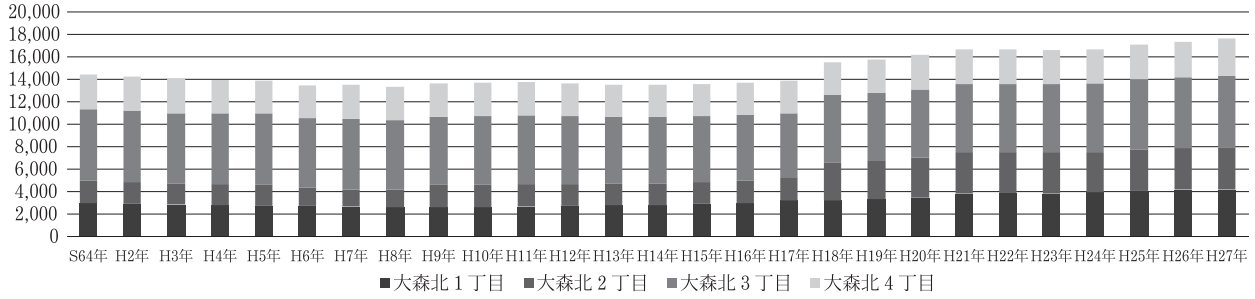

図１　大森地区の世帯数の変化

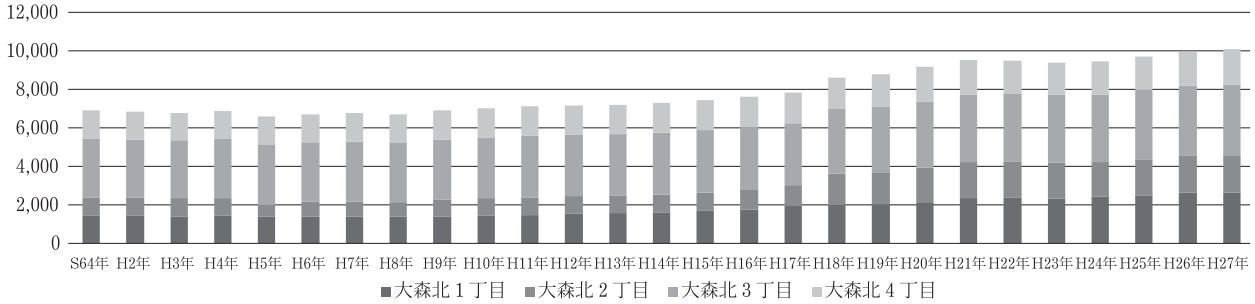

図２　大森地区の住民数の変化

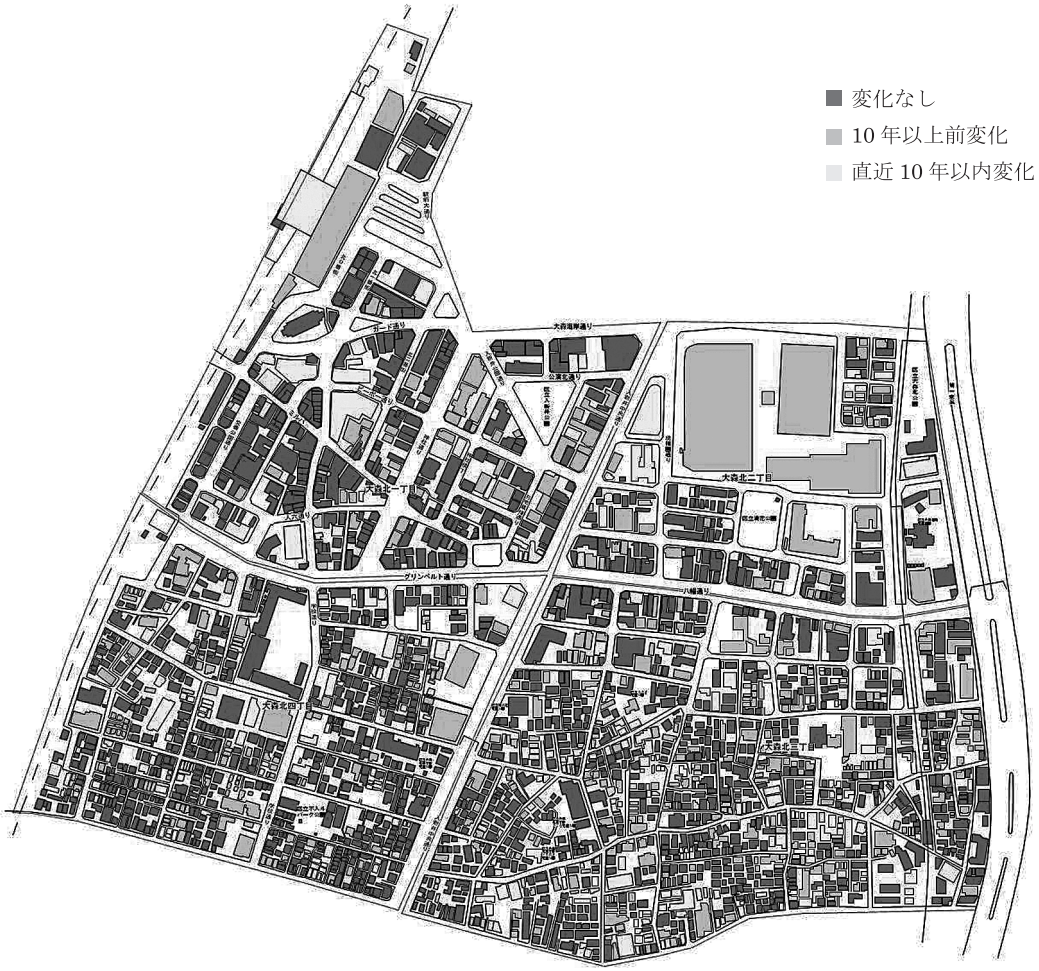

図３　大森北１丁目から４丁目の 20 年間の建物の変化

5. 20年間の建物変化

図3の地図は，大森駅周辺の大森北1〜4丁目の1995年，2005年，そして2015年の住宅地図[*4]を比較してまとめたものである。全体的に7割程度が20年前から変化のない建物と言える。

図3を地域ごとにみると，左上の北1丁目は大森駅前に立地し，大森銀座商店街など，商業施設・業務施設の集積のみられる地域である。特に駅周辺で大きく変化していることが見て取れる。駅の形も20年前とは変わっている。駅前の建物も空地にできたわけではなく，別の建物があった場所に新しく建てられ，テナントの種類が増加した。10年前と比較して病院や保育所やコンビニ，図書館等の施設が入っている複合施設Luz大森ができている。

右上の大森北2丁目ではほかの地域と異なり大きな変化があった。20年前にはアサヒビールの工場があった場所に平成16年12月，イトーヨーカドー大森店と共に隣地に建設された大型マンション，企業の建物が建っている。また，この地域には，広い公園があり，幼稚園があるなど住民にとっては大変暮らしやすい環境が整っている。

右下の大森北3丁目は小規模住宅の密集する住宅街が広がっていることが特徴である。他に較べ区画の整備が遅れており，道幅の狭い曲がりくねった道が多い。そのため，小さな規模の変化が多いと言える。20年前にあった広い駐車場やその他の住宅に囲まれていた小さな駐車場スペースがなくなり，代わって住宅が密集して建てられている。他には，何軒か建っていた住宅が取り壊され，その敷地にマンションが建っている。また，居住者は変わらないにも拘わらず，建て替えられているところも少なくなかった。同じ苗字の人が密集して住んでいる場所などがあることから，昔からのこの地域に住み続けている方々も少なくないことが窺われる。

左下の小学校が存在する大森北4丁目のエリアでは，20年前から変化した場所が全体として多くみられる。駐車場であった場所に大きなマンションが建ち，石材問屋の石材置き場もなくなり住宅が建てられている。これら広い敷地がなくなり，細かな住宅街へと変化しているのと反対に，20年前は何軒か密集していた住宅が取り壊されて区立の児童公園となっている箇所があった。このように，まちに建物がどんどん増えているにも拘わらず，建物を取り壊し，地域のコミュニティの核となる場所や公園も設けられてきている。

6. 地域施設の立地状況

大森北1〜4丁目及びその周辺の施設類の分布は，図4のとおりである。これをみると，教育施設，幼稚園・保育施設の他，病院・医療施設，高齢者デイサービス・デイケア施設，公園，社寺等が数多く存在している。また，駅周辺にアトレやイトーヨーカドー，ダイシン百貨店（平成28年5月閉鎖）などの大規模店舗もある。また，地域施設には，入新井特別出張所，入新井図書館，集会室などの複合ビルであるLuz大森，ハローワーク大森と，区立男女平等推進センター「エセナおおた」，母子支援を担う「大田区子ども家庭支援センター」「キッズな大森」「ファミリー・サポートおおた」の複合施設の他，高齢者支援の地域包括支援センター「さわやかサポート入新井」や，「入新井老人いこいの家（ゆうゆうクラブ入新井）」が立地している。また，児童福祉施設としては，「大森北児童館」の他，入新井第一小学校の施設を利用して併設する新しいタイプの児童館「フレンドリー入新井第一」がある。

一方，大規模スポーツ施設，博物館などの文化施設，ケアハウス，シルバーピア，軽費老人ホーム，特別養護老人ホームなどの高齢者・障害者の居住施設は，大森東，大森西など，京急平和島駅を中心とした，昔からの大森の中心集落の周辺及び東側の埋め立て地に立地し，大森駅東口界隈にはない。

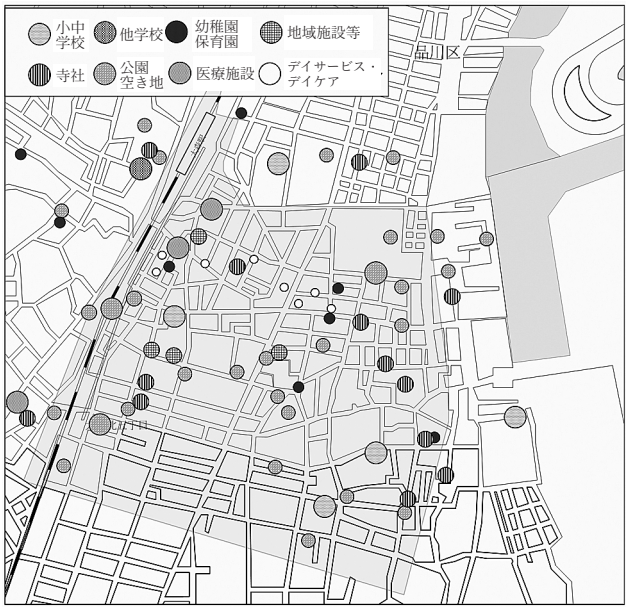

図4　大森駅界隈の施設分布

7. まちの人たちの意識

大田区では，毎年区民に対して「大田区政に関する世論調査」*5 を行っており，定住性，暮らしやすさ，健康に暮らせるまち，など 15 項目を調査している。この調査から，以下のような区民の認識が浮かび上がってくる。

- ずっとまたは当分は大田区に住み続けたい 86.7%
- 暮らしやすい 66.3%（通勤・通学に便利，買い物の便，医者や病院の便，など）
- 大田区に入れてほしいことは，防災対策 50.1%，高齢者福祉 37.4%，緑化推進 31.5%
- 自治会町会などの活動では，祭りや地域行事に参加したことがある 39.7%，防災・防火 19.1%

このように，大田区は暮らしやすいまちであり，多くの人が住み続けたいと考えており，地域コミュニティ活動に参加する人も少なくなく，高齢者になっても住み続けられる安心できるまちづくりを求めている。

8. 大森北 1 丁目の建物の概要

最も変貌の大きかった大森北 1 丁目は，JR 大森駅前に位置し，大森銀座商店街など店舗の集積する地域である。階数別の建物分布を図 5，用途別の建物分布を図 6 に示す。

建物の階数は，大森銀座商店街北側は，ほぼ 6 階建以上がその大半を占めているが，商店街南側及び北側の入新井第一小学校から大森駅へ抜ける大森北一番街通りの西側は，4・5 階建と 3 階建以下の建物の混在しているところが多い。用途は，JR 大森駅に隣接するエリアから品川区との区界でもある大森海岸通り沿いには，店舗併用住宅・独立店舗とオフィスビルが混在し，ミルパ通り，大森北一番街通り，入六通り，交通公園通り，などの通り沿いは，店舗併用住宅・独立店舗が今日でも数多くみられる。また，入新井中央通り，神社通りなどの地区東側の道幅の広い通り沿いを中心に，6 階建て以上の専用住宅が多数立地している（通り名: 図 18 参照）。

図 5　大森北 1 丁目建物階数

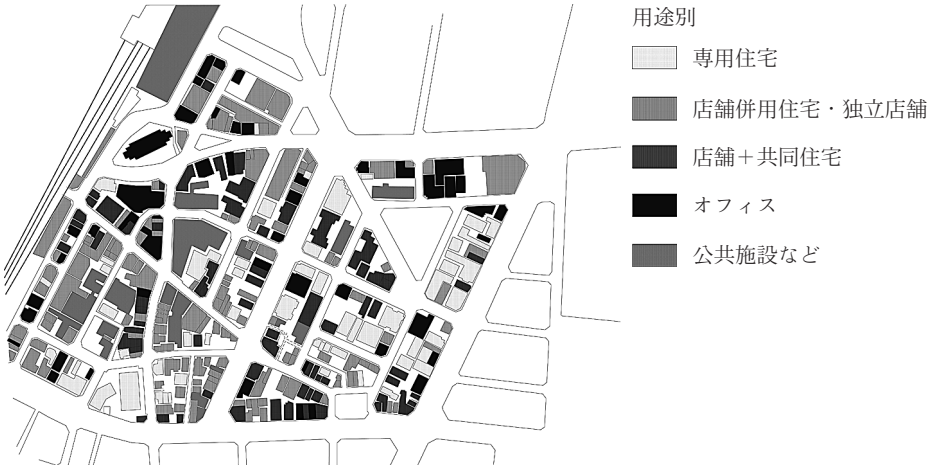

図 6　大森北 1 丁目建物用途

9. 住民の地域での生活に関するアンケート調査

大森駅東口地域の住民の地域でのイベントへの関心度，日ごろの買物行動などを知るために，この地域を校区とする入新井第一小学校児童の父母及び地元町会に所属している世帯の世帯主を対象にアンケート調査を行った。

入新井第一小学校では，3年生の社会科学習，総合的学習として，地域学習を行っており，その一環として，大森銀座商店街の協力を得て，子どもたちが店舗にインタビューを行う「大森のまちを知ろう」という活動を実施している。この活動を行った3年児童の父母を対象に，入新井第一小学校3年生学級担任教諭の協力を得て，アンケート票を児童に配布し，父母の回答を得て回収した。

アンケート票の配布は，子どもたちが店舗にインタビュー活動を行った平成27年6月11日に配布し，1学期末までに回収した。調査票は，3年生全児童98人に配布し，51人から回収できた。

また，JR大森駅東口のまちづくりについては，地域の町会・商店街が協議会の会員となって検討が進められている（図7）。この会員となっている，大森北1丁目，入新井6丁目，入新井4丁目の3町会に属する世帯主の方々（おおむね50歳以上）を対象に，3町会の町会長の協力を得て，アンケートを実施した。アンケート票は，同年8月上旬に配布し，9月末までに回収を行い，大森北1丁目16人，入新井6丁目31人，入新井4丁目29人，計76人から回答を得ることができた。

調査項目は，小学校児童の父母・町会共通とした。また，PTAに対しては，3年生の総合学習の波及効果に関するアンケートも加えて実施した。回答者の大森での居住年数（図8）をみると，町会では40年以上が大多数を占め，父母の場合は20年以上が1/3，20年未満が2/3を占め，過半数は他から移り住んできた人たちと考えられる。

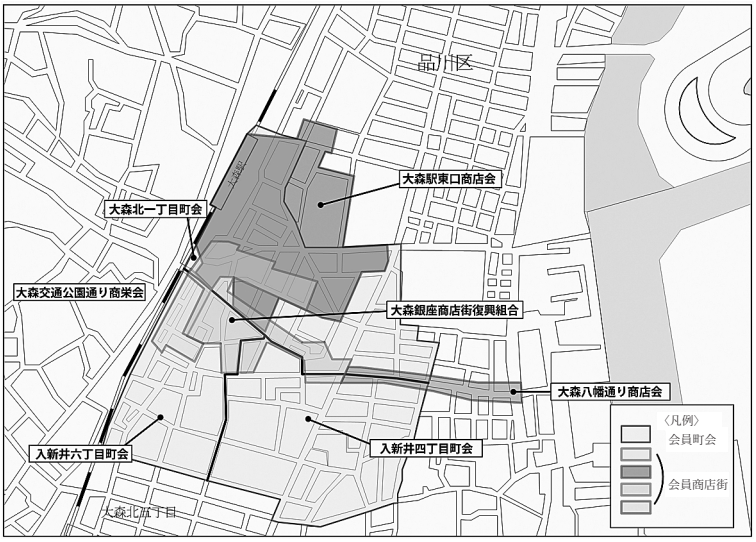

図7　大森駅東口まちづくり協議会会員団体

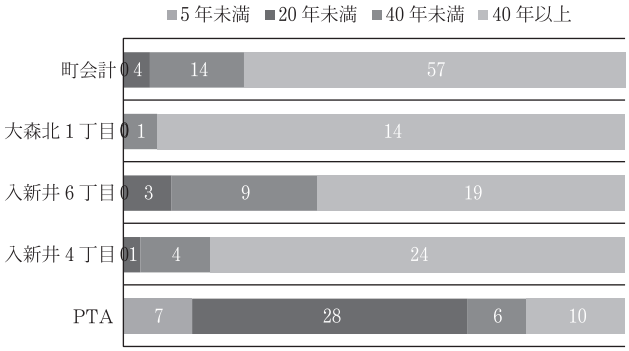

図8　居住年数分布（人）

10. 地域のイベントへの関心・関与度

地域イベントへの関心・関与度（図 9〜12）をみると，子どもたちのために実施されている森っ子フェスティバルへの関与度は，PTA は極めて高く，町会は高くない。

磐井神社夏祭り・子どもたちのお神輿巡行への関与度では，PTA が町会平均よりは高いが，森っ子フェスティバルに比べるとかなり低い。町会では，会場となる鷲神社の立地する関与度の極めて高い大森北 1 丁目と，他の 2 町会の落差が非常に大きい。

地域の老若男女が楽しめる入新井盆踊りへの関与度は，町会，PTA 共に高い。

師走の風物詩で，遠方からの来場も多い酉の市への関与度も，町会は高い。

以上から，地域で行われているイベントは，町会が主体になっているもの（酉の市，盆踊り）と，商店街が主体となっているもの（森っ子フェスティバル）でそれぞれの関与度に差が生まれている。また，町会の関与度は，開催場所に近いかどうかで，かなりの差が生じている。

11. 買物行動

買い物でよく利用する場所・方法（図 13）についてみると，大森銀座商店街の利用は，町会では 5 割を超えている

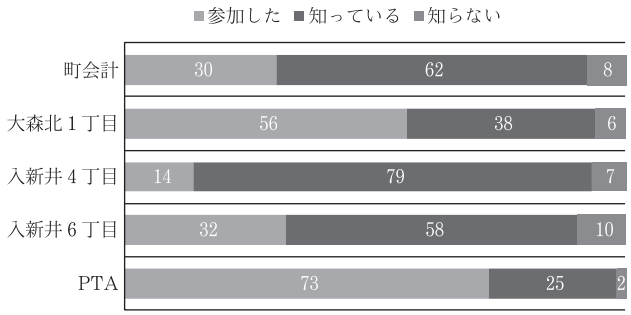

図 9　森っ子フェスティバルへの関与度（%）

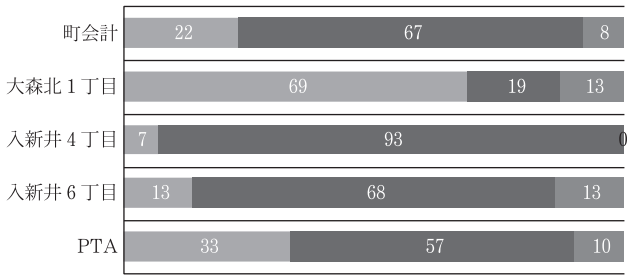

図 10　磐井神社夏祭り・お神輿への関与度（%）

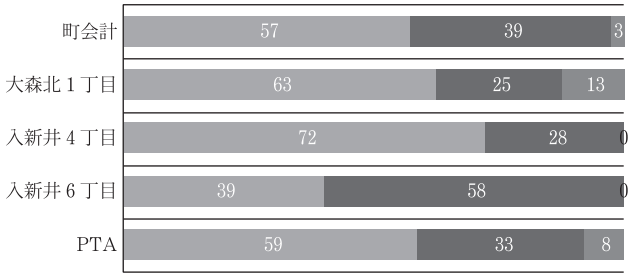

図 11　入新井盆踊りへの関与度（%）

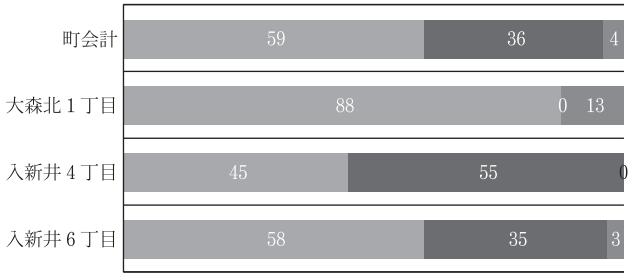

図 12　鷲神社酉の市への関与度（%）

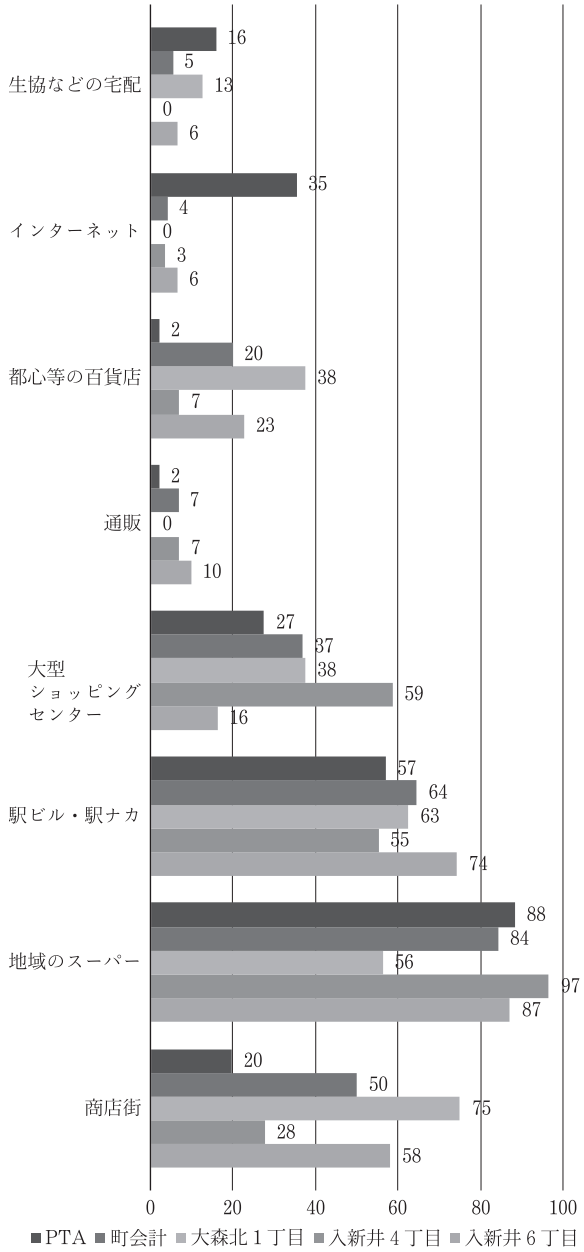

図 13　買い物でよく利用する場所，方法（%）

が，PTA では 2 割と，大きな差がある。また，町会の中でも，商店街から遠い入新井 4 丁目は PTA とあまり変わらず，他の 2 町会と大きな差がある。

地域のスーパーマーケットの利用率は，いずれにおいても高いが，商店街の利用が高い対象ほどスーパーマーケットの利用が低いという，相反の関係にある。

駅ビル・駅ナカの利用はおしなべて高い。また，大型ショッピングセンター利用は，商店街から最も遠く，イトーヨーカドーに最も近い入新井 4 丁目町会で高くなっている。

都心の百貨店等の利用率は，JR 大森駅に最も近い大森北 1 丁目町会が群を抜いている。

また，インターネットショッピング，生協などの宅配サービスについては，PTA では一定の利用が確認されたが，主として 50 歳以上の人をアンケートの対象とした町会での利用はほとんどみられなかった。

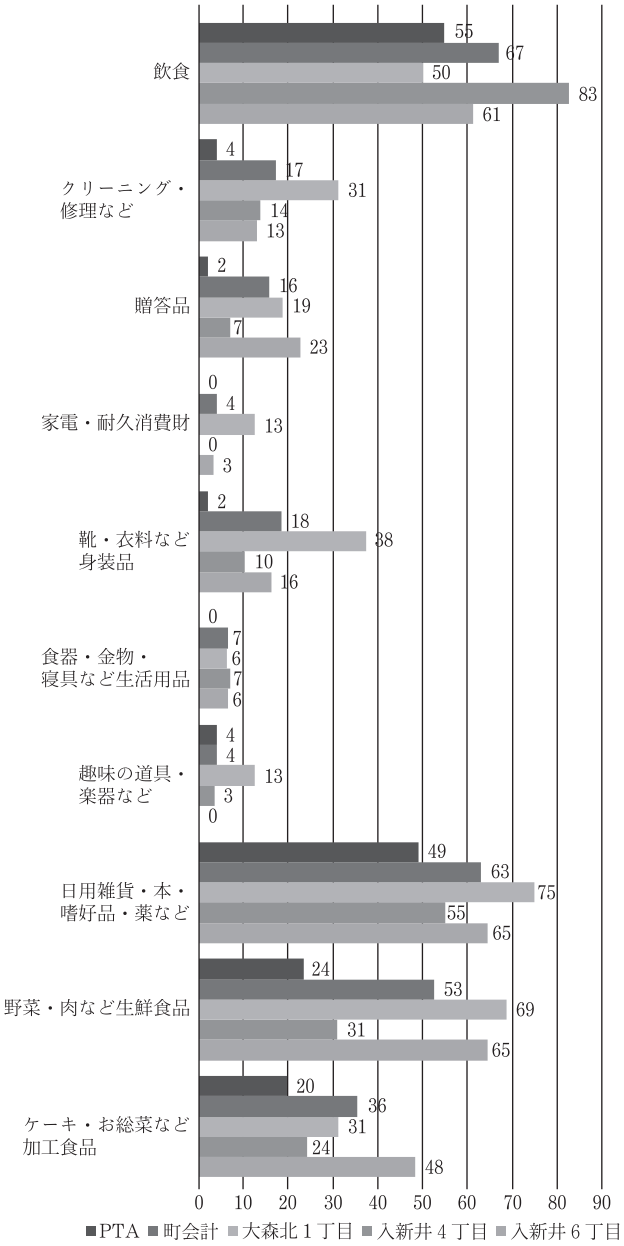

図 14　商店街で比較的よく買うもの，利用するもの（%）

地域の人々の買物行動で，身近にある地域のスーパーマーケットは欠かせないものとなっており，大型ショッピングセンターや商店街は，自宅からの距離によって利用率が異なっていると目される。

大森銀座商店街の利用は，飲食については PTA，町会ともおしなべて高い。

商店街で比較的よく買うもの，利用するもの（図 14）をみると，利用率が比較的高いのは野菜・肉などの生鮮食品類と日用雑貨・本・嗜好品・薬などであった。しかし，日用雑貨等が PTA，町会で大きな差がなかったのに比べ，生鮮食品類では，PTA がかなり低く，町会でも商店街から最も遠い入新井 4 丁目町会は PTA とあまり変わらない低さを示している。

その他のものについてみると，町会の利用率が PTA より大きく高いのは，ケーキ・お総菜などの加工食品であった。また，PTA の利用率が町会より大きく低いのは，クリーニング・修理など，贈答品，靴・衣料品などの身装品であった。さらに，クリーニング・修理，家電・耐久消費財の利用率も町会が高く，PTA は低く，おしなべて PTA の商店街の利用率は高くない。

PTA の利用は，飲食と日用雑貨や本・嗜好品・薬などのコンビニエンスストアの主力商品と目されるものとの共通性が高く，町会では，商店街に近い場合は生活全般に関わる買い物の中心が商店街になっているとみることができる。

12. 地域住民の商店街への要望

自由筆記をお願いした商店街への要望には，PTA に比べ町会からは数倍の意見が寄せられており，日常的に利用しているが故に，商店街への期待が様々な要望に繋がっていると思われる。代表的な意見を挙げると，行事について町会からの意見には，情報が周知されていない，バーゲンセールなどをもっと行ってほしい，PTA からの意見では，子どもの楽しめる行事を続けていってほしい，商店街でスタンプラリーなどの新たなイベントを検討してみてほしいといった声が寄せられている。商店街に対して，町会からは，必要な店が揃っていない（電気店・鮮魚店がない），買いたい品揃えがされていない，商店街に活気がほしい，アピールが十分でない，家族で行ける店が少ない，町会と商店街の交流に欠けているといった声が，PTA からは，商店街にどんな店があるかよく知らない，なんとなくお店に入りにくい感じがするといった声が寄せられた。

13.「大森のまちを知ろう」の学習活動の波及効果

入新井第一小学校の3年児童が行った総合的学習の「大森のまちを知ろう」では，子どもたちが商店街の店を訪ね，地域の昔の様子やそれぞれの店で扱っている商品に関して話を聞き，店のポスターを作って発表する活動を行っている。この授業が児童の家庭で話題になったり商店街に対する認識に変化が起こったかなどを調査した（図15）。これをみると，子どもの興味，関心はある程度得ることができており，さらに保護者の興味，関心も半数以上にのぼっているため効果が認められ，子どもが興味を持つ→家庭で商店街が話題になる→親が訪問先の店を確認に行くというサイクルで，商店街について知ってもらうのに効果があると認められる。自由回答でも，「子どもが行ったお店のことを話してくれ買い物に行ってみようと言われるようになった」，「こんなところにお店があったのかと分かるようになった」，「利用したことのない店にも興味が湧いた」，などの声が寄せられた。

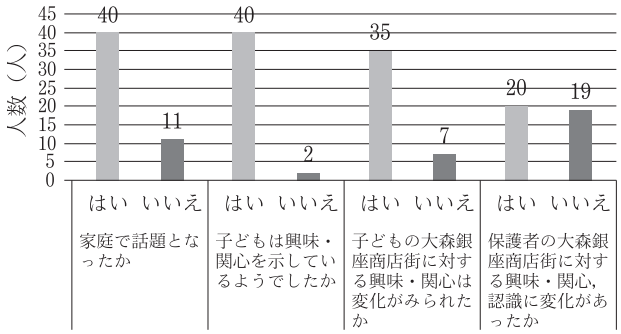

図15 「大森のまちを知ろう」学習活動の効果

14. 商店街の交通量

またアンケートとは別に，大森北1丁目の中心部に位置する大森銀座商店街の賑わい，人通りを探るため，交通量調査を行った。調査は大森銀座商店街ミルパ周辺の7箇所（図16）で行った。各交差路にて，平成27年8月21日（金）の9:30，11:30，14:00，16:30からの5分間ずつ行い，自転車と通行人の数を，自転車，通行人の来る方向・向かう方向別に記録した。

7地点の交通量（図17）を手段別にみると，歩行者数は大森駅ビル前と安田病院前が多いことが分かる。一方，自転車はJRガード前と中華料理満福前が多いことが分かる。

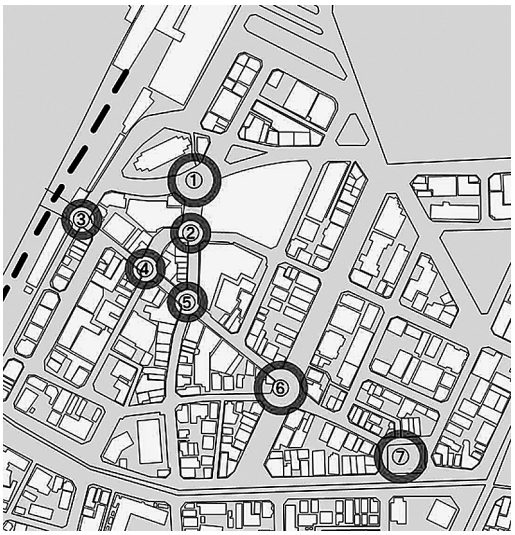

図16 交通量調査地点

①大森駅ビル前，②安田病院前，③JRガード前，④中華料理満福前，⑤サンマルク前，⑥アーケード東口，⑦森っ子広場前

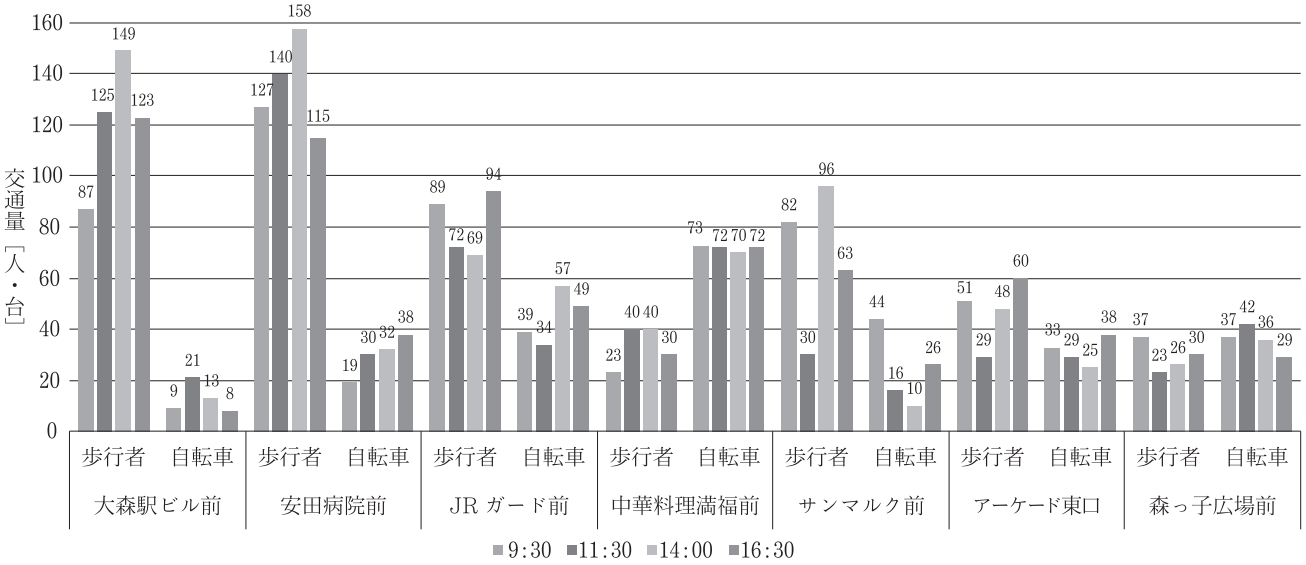

図17 各地点交通量結果

つまり，交通手段によって利用する道が異なることが分かる。歩行者数の多い大森駅ビル前と安田病院前は駅から大森銀座商店街に続く道にある地点であり，駅利用者が通るために自転車通行台数が少なくなったと考えられる。自転車数が多い JR ガード前，中華料理満福前は駅に繋がる大通りに近く，駐輪場もあるための結果と考えられる。

次に，時間別に各地点，手段をみると，歩行者数の多かった 2 地点は両方共 14:00 が最も高くなっている。中華料理満福前ではどの時間帯も自転車数はほぼ変わらないが，JR ガード前の自転車数は 14:00 が最も多い。アーケード東口では歩行者数，自転車数共に最も多い時間帯は 16:30 であった。その他の地点，手段では顕著な結果はみられない。これらから，昼間仕事をしていない主婦や年配者が一定数いるのではないかと考えられる。

商店街への流入・流出となる位置・方向（図 18）を示す。矢印の方向が流入，反対方向である場合，流出となる。流出（図 19）・流入（図 20）共に駅ビル前が多いことが分かる。また，JR ガード前，サンマルク前，アーケード東口も多く，流出・流入共に似た結果となった。図 18 より，3 と 6 は商店街のアーケード両端であり，大通りに面するため，多くなったものと考えられる。5 のサンマルク前は南の住宅街方面からの駅への最短ルートであるため，多くなったと考えられる。

この 1 から 5 の直線の流れを確認するため，サンマルク前の通行方向の区分を図 21，方向別交通量を図 22 に示す。住宅街と駅を繋ぐ最短ルートである，道路①と②の歩行者

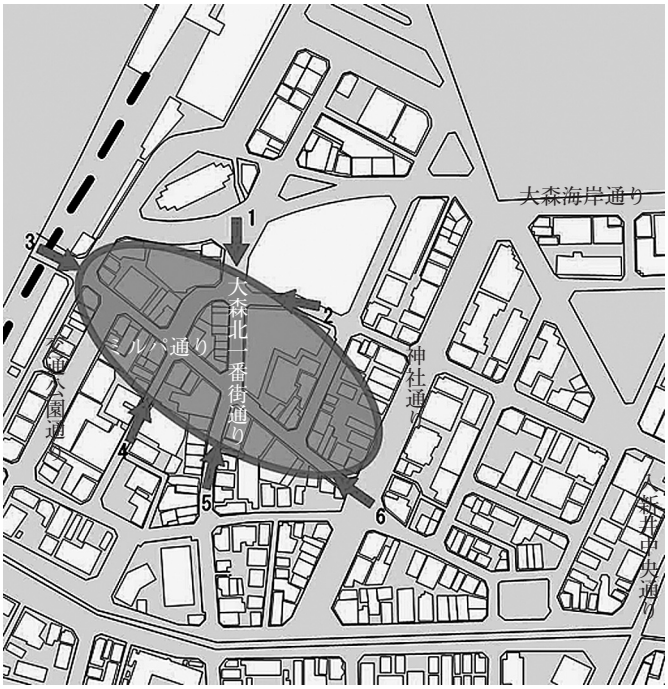

図 18　流入と流出の位置・方向

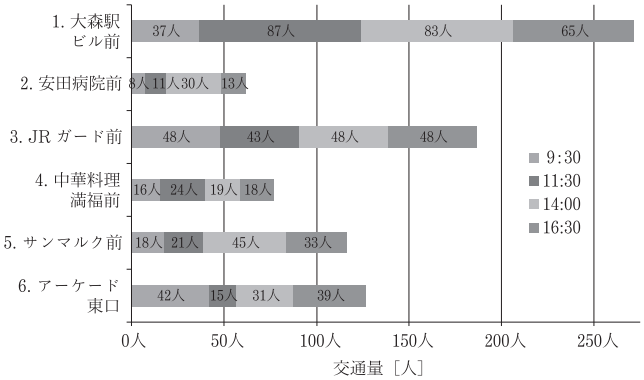

図 19　調査場所別交通量（流出）

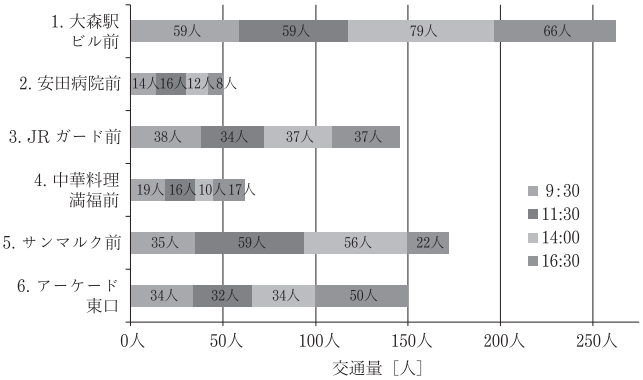

図 20　調査場所別交通量（流入）

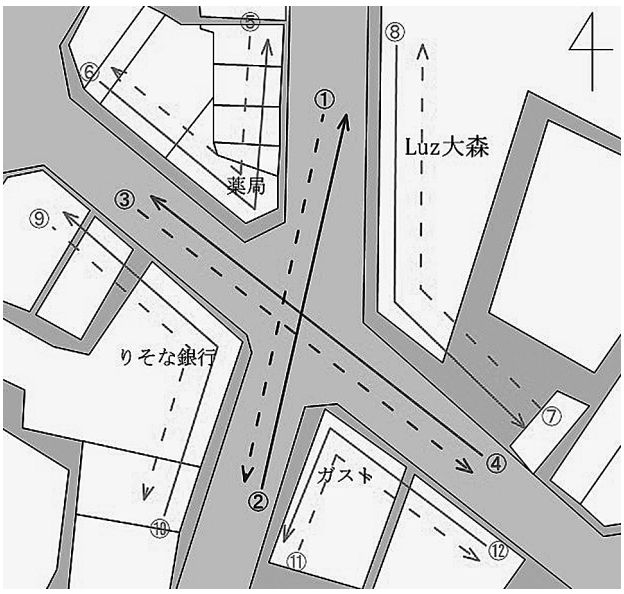

図 21　サンマルク前通行方向の区分（道路番号）

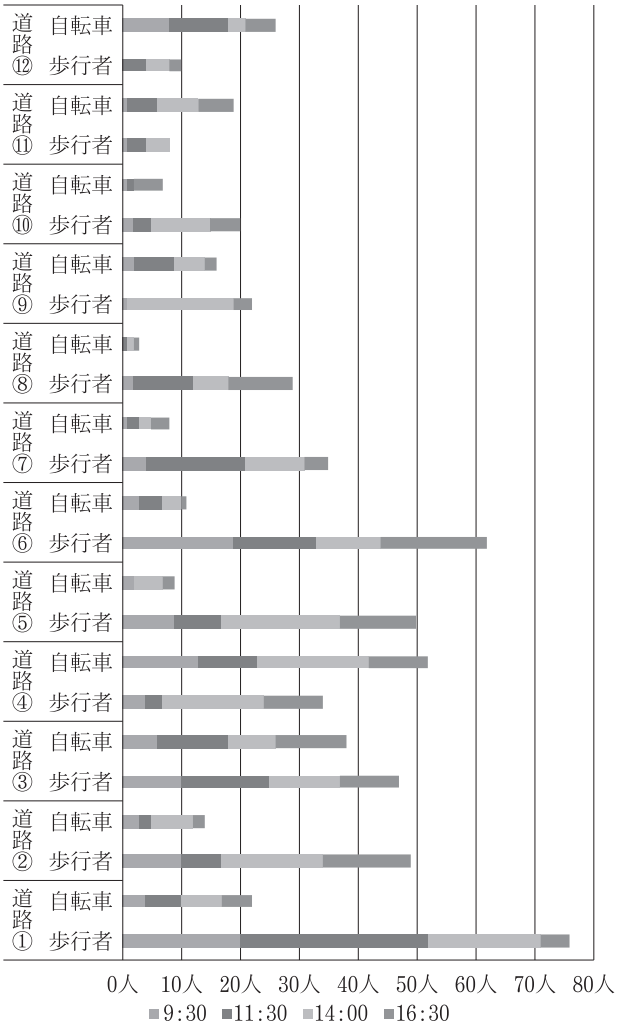

図 22　サンマルク前方向別交通量

数が多いことが分かる。また，道路③と④のアーケードに沿った横の方向に自転車数が多いことが分かる。

大森銀座商店街付近の交通量の特徴は交通手段によって利用する道が異なる点である。1つに，歩行者の流れは駅と住宅街を結ぶ南北の流れが多いこと，もう1つに，自転車の流れはアーケードに沿った東西の流れが多いことが分かった。サンマルク前を往来する人々は，徒歩の場合，多くの周辺住民は駅と自宅までを行き来するために商店街を通っていると考えられる。また，自転車の場合，交通量からは駅と住宅街の方向関係が顕著にみられなかったため，駅を利用する人は少なく，商店街を利用するために来ていると考えられる。

これらのことから，大森銀座商店街は駅と住宅街に挟まれ，地域住民の生活動線の中心にあり，人々の通行は多いと言えよう。まちづくりを考える上で，商店街を利用する自転車には，目的施設への利便性を損なわない範囲での歩行者との分離・駐輪スペースの整備の方策を考える必要もあろう。

15. 大森駅東口のまちづくり

JR 大森駅東口地区は，明治に入って鉄道の開通とともに発達したまちである。現在，大森北1丁目は，単身者向け集合住宅を中心とした中・高層集合住宅の立地が進み，2丁目は工場跡地へのファミリー層向けの大規模集合住宅が立地し住民を増やしている，一方3・4丁目では人口の増減はほとんどないが世帯当たり住民数は漸減傾向にある。大森北1丁目は，大森駅に近接している立地を生かし，数多くの小規模中・高層住宅が建てられ，まちの姿を変えつつある。大森北2丁目は工場跡地への大規模集合住宅の立地等での大きな変化がみられるが，昔ながらのまちの姿をとどめている区域もある。

大森北3・4丁目は，その大半が，先に述べた戦災復興区画整理地区外にあり，低・中層集合住宅の立地も散見されるものの，昔ながらの落ち着いた住宅地としての姿を色濃く残していると言える。

人々の多くは大田区に住み続けたいと考えており，高齢者でも住み続けられるまちが期待されている。

大森北1丁目に位置する大森銀座商店街は，中層ビルへの建て替えが行われた店舗，昔ながらの店舗併用住宅が入り混じる中に建て替わった小規模中層集合住宅が混在している。JR 大森駅への経路としての人通りが多く，近傍の住民にとってなじみの商店街ではあるが，店舗構成，品揃えなどにほころびが見え始めている。これらの現状を踏まえ，地域の人々が住み続けられるまちとしてのまちづくりの検討が求められよう。

謝辞　今回の調査は，大田区役所，大森銀座商店街，大田区立入新井第一小学校，大森北1丁目町会，の協力を得て行うことができた。また，実地調査・図版作成等には木村研究室3年生（当時）があたった。このことを付記し，謝意を呈したい。

注

＊1　大森駅周辺地区グランドデザイン　大田区まちづくり推進部　平成23年3月

＊2　いりあらい　第2号　平成3年9月18日号　わがまち大田入新井地区推進委員会
大森銀座商店街振興組合（沿革・現状）　大森銀座商店街振興組合　平成26年3月
OOMORI　CAFÉ　2004年あき号　特定非営利活動法人大森まちづくりカフェ

＊3　大田区ホームページ　区の数字から作図
https://www.city.ota.tokyo.jp/kuseijoho/suuji/jinkou/
（平成28年1月）

＊4　ゼンリン住宅地図　大田区　1995年版，2005年版，2015年版

＊5　大田区ホームページ　大田区政に関する世論調査（平成26年度）
https://www.city.ota.tokyo.jp/kuseij 6 yoronkekka.html
（平成28年1月）

図版作成　図1・2　中川はるか，図3　関口麻有子，図4　新舟美有，図5・6　斎藤優美，図7・15　土屋あかり，図16〜22　斎藤優里，図8〜14　筆者
「大田区政に関する世論調査」要約　中島 遥

（きむら　のぶゆき　　環境デザイン学科）